



平成24年度農業農村工学会大会講演会

企画セッション3

「論文集での電子投稿・査読システムの導入について」

論文集編集委員会

電子投稿・査読システムの紹介

— 査読者の立場から —

岡山大学大学院環境生命科学研究科

近森秀高

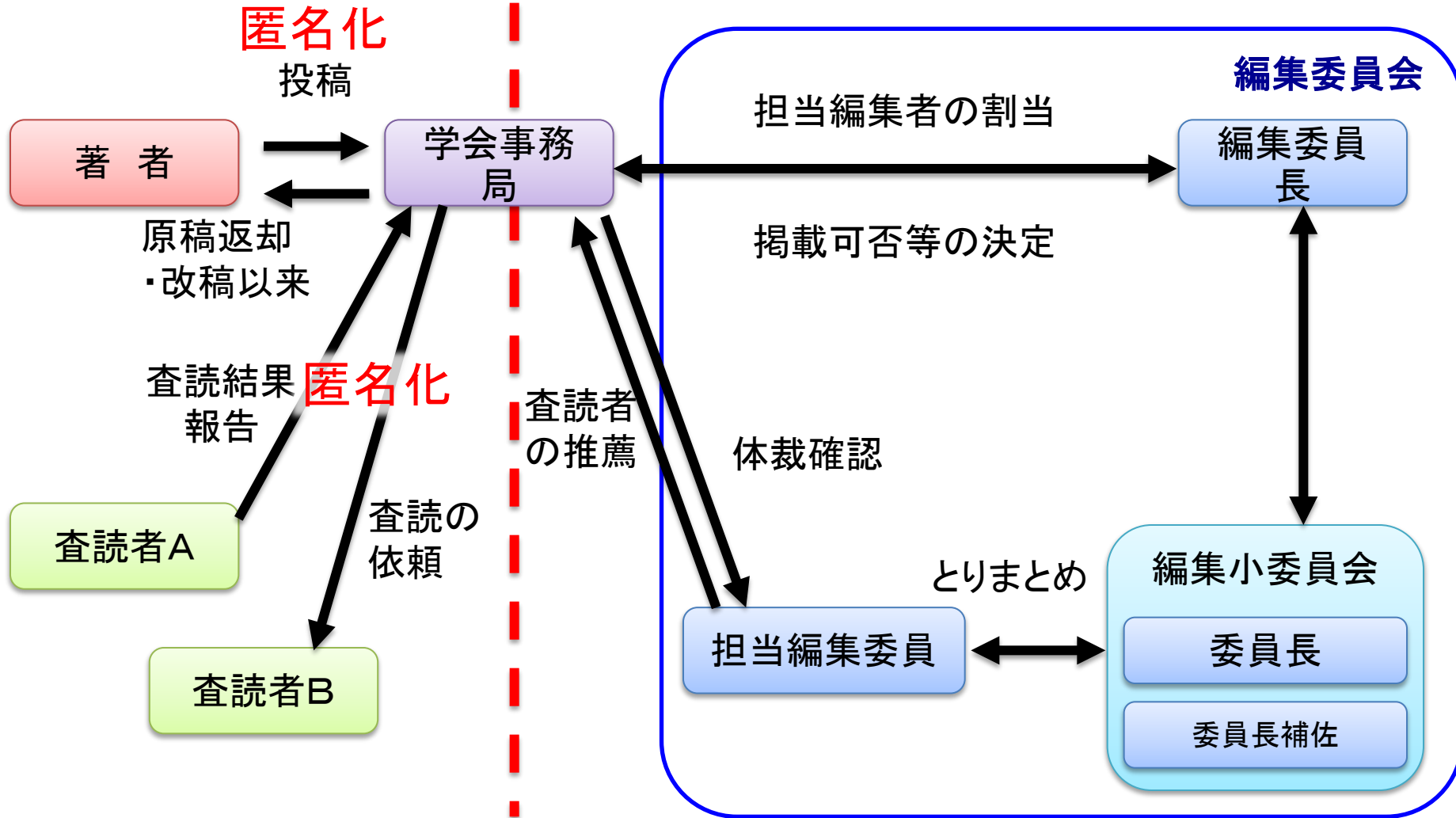
システム導入前後の査読作業の変化

- 匿名作業の自動化
- 担当編集委員の名前
...著者にも査読者にも分からない
- 匿名化の作業
 - システム導入前...学会事務局
 - システム導入後...電子査読システム

電子投稿・査読システム導入前

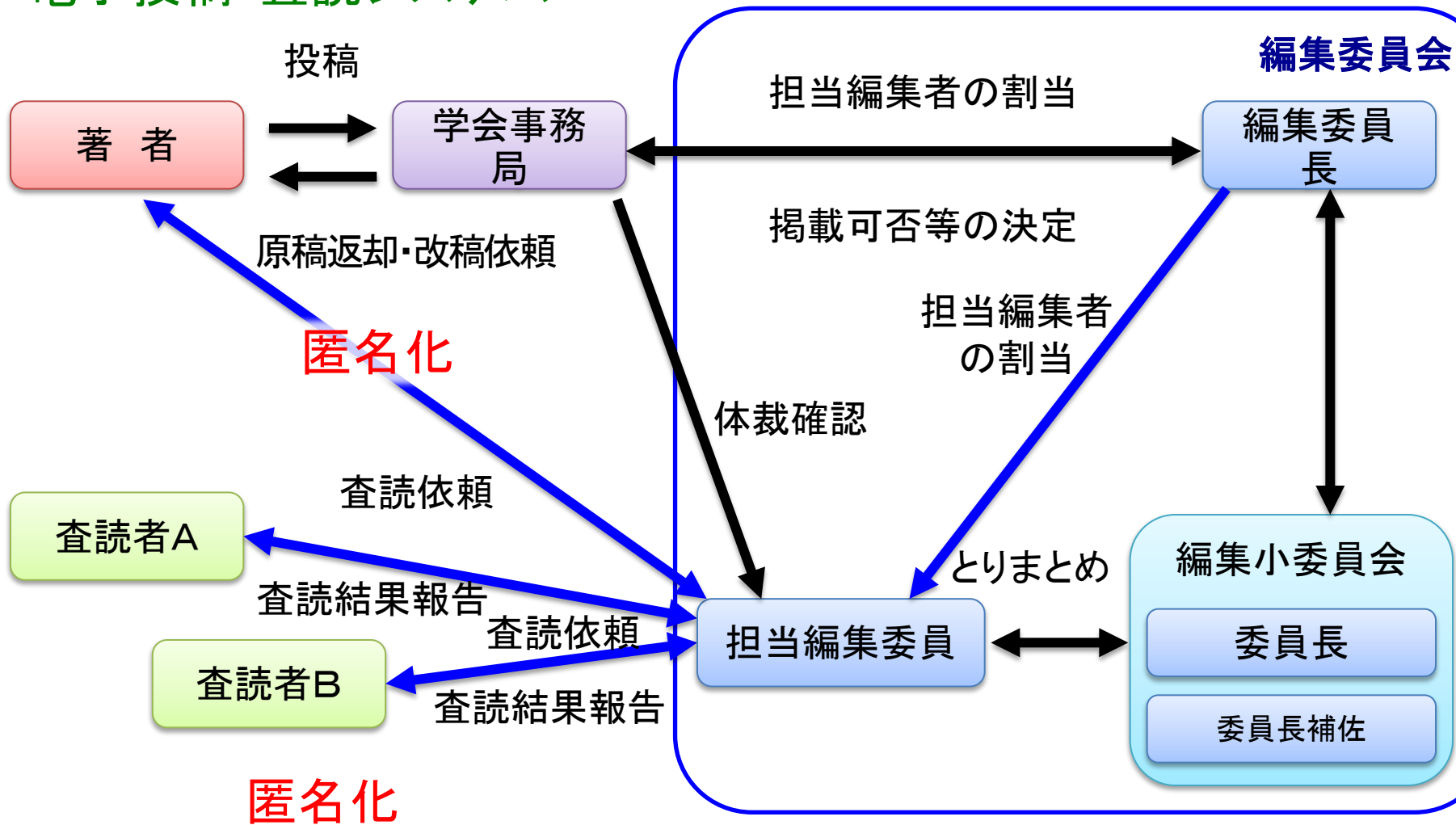
郵便

電子メール



電子投稿・査読システム導入後

電子投稿・査読システム



査読者から見た作業の変化

- オンラインでの査読依頼
- 査読論文の原稿をPDFで入手
→PCやタブレット端末で作業可
- 査読結果をWEB入力
→査読後, 直ちに結果の返送可
- 自分が担当する論文の査読状況が
どこからでも分かる
- 期限が過ぎると, 自動的に督促メールが来る

インターネットが使える環境があればどこでも査読可

電子システム導入の利点

- 査読のしやすさ
 - 場所を選ばずに査読可
 - ネットが使える環境であれば可能
- 原稿の受取や, 査読結果の送付が簡単
- 査読結果をパソコンで入力可
 - 添付ファイルでも送付可能

査読者に関わる問題点

- 電子査読システムの使用法の習熟
 - マニュアルの充実, 適宜改良が必要
- 査読原稿(PDF)の読みやすさ
 - PCやタブレット端末の画面上では読みにくい?
...見落としが増える懸念
- 「書き込み」は困難
 - 結局, 紙に印刷することに
- 査読辞退者増加への懸念
 - ...1 clickで辞退できる。

匿名性の問題

- ダブル・ブラインド方式
 - 著者と査読者とがお互いに相手の名前を知らない
- 投稿前に、論文原稿から著者名を削除する必要
- 参考文献などから著者が類推できるケース
- シングルブラインド方式
 - 著者は査読者の名前を知らないが、査読者には著者の名前が分かる。

査読期間短縮化の問題

- 電子査読システム導入効果の一つとして期待

査読はどうあるべきか？

(江口和洋:「一読, 査読, 誤読, 功德」より)

1. 査読依頼が来たとき
2. 査読を引き受けたら

査読の目的と姿勢

- ① 内容に対しては著者が責任を負うべきものであり、その価値は読者が判断するものである。
- ② 査読では内容の批判や討議を行うものではなく、**見解の相違は不採用の理由とはならない**。内容に対して疑問または異論を持つ場合は、論文集誌上で質疑または討議されるべきであり、これによって研究の進歩がなされるものである。
- ③ 査読者は、著者に対して研究指導する立場にない。よって、投稿された原稿に対して、**新たな実験や計算の追加要求は極力避ける**。
- ④ 投稿された研究成果ができるだけ早く会員に公表されるよう、**査読期間を遵守**する。

査読依頼が来たとき...

1. 自分は適当なレフェリーか

理想的には、正当な理由以外では辞退しないでください。

- 1) 極めて多忙,
- 2) 完全な分野違い,
- 3) 理解能力の範囲を越えている

※ 多少の専門違いは許容してください。

- 要旨を一読して2)または3)なら即座に辞退
- 候補を(できれば複数)指名してください。

査読依頼が来たとき...

2. 利益の対立は自分の客観性への障害となるか
関係の疎密, 系統の遠近は辞退理由になる
3. その原稿は自分の未発表の研究と重複しないか
自身の研究と重複するものは即座に辞退

査読を引き受けたら...

1. 査読はどの程度行うべきか？

査読の役割：

- 1) 雑誌への掲載の可否を審査する.
- 2) 著者へ問題点を指摘して助言を行う.

1) 掲載の可否

(1) 新規性 ① 知見と見解を提示 ② 新しい解釈あるいは新しい理論を組立 ③ 困難な研究・技術的検討 ④ 現象の解明に貢献 ⑤ 主題, 内容, 手法に独創性 ⑥ 学会, 社会に重要な問題を提起 ⑦ 創意工夫に満ちた計画・設計・工事等の技術的検討, 経験が提示

「研究論文」で主に評価

(2) 有益性 ① 研究・技術の成果の応用性, 有益性, 発展性 ② 研究・技術の体系化 ③ 今後の実験, 調査, 計画, 設計, 工事などに取り入れられる価値がある. ④ 問題の提起, 試論, またはそれに対する意見として有用 ⑤ 特色ある実験・実測のデータ, 新しい数表, 図表を提示

「研究報告文」で主に評価

(3) 完成度 ① 全体の構成が適切であり, 目的と結果が明確である. ② 既往の研究・技術との関連が明確である. ③ 文章表現が適切である. ④ 図・表が分かりやすい.

(4) 信頼性 過去の研究が適切に引用され, 公平に評価されている. ② 実験や解析の条件が明確に記述されている.

2) 著者への助言

1. 誤り, 問題点の指摘は
具体的に指示, 理由を説明する
2. 的確な助言を行う.

編集者を悩ませる査読者

1. 数行のコメントしか返してこない。
(編集者の判定材料にならない)
2. 何でも言いたいことを全部書いてしまう。
 - ある意味, 親切
 - コメントが過激な場合あり
3. 個人的見解の違いのレベルなのに, 自分の好みを押しつける。
4. 判定に関することを断定的に書いてしまう
「直さない限りアクセプトはあり得ない」など

まとめ

- 電子投稿・査読システムはあくまでも「道具」
- 「論文集」は学術面における学会の看板
- 著者，査読者，編集委員会の3者の努力が基本